

SDGs 未来都市等進捗評価シート

静岡県静岡市

2019年8月

SDGs 未来都市計画名

静岡市 SDGs 未来都市計画

1. 全体計画

計画タイトル	静岡市 SDGs 未来都市計画
2030年のあるべき姿	静岡市基本構想が定める『世界に輝く静岡』の実現に向け、本市が進めている5大構想（「健康長寿のまち」の推進、「まちは劇場」の推進、教育文化の拠点づくり、歴史文化の拠点づくり、海洋文化の拠点づくり）が成就した姿

2030年の あるべき姿の 実現に向けた 優先的なゴール	経済 ゴール8 ターゲット8.6,8.9 ゴール9 ターゲット9.2 ゴール11 ターゲット11.7 ゴール12 ターゲット12.3 ゴール16 ターゲット16.7	社会 ゴール1 ターゲット1.2 ゴール3 ターゲット3.4 ゴール4 ターゲット4.1 ゴール8 ターゲット8.5 ゴール9 ターゲット9.1,9.5	環境 ゴール12 ターゲット12.3 ゴール14 ターゲット14.1,14.b
			

優先的なゴール、 ターゲットに関する KPI	No	指標名 ※【】内はゴール・ターゲット番号	当初値	2030年	進捗状況や課題等（定性指標や補助指標等を含む）
	1	静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人たちのうちシチズンシップが身についた人の割合【8.6】	2017年3月	98.9 %	2030年 100 %
2	演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」来場者数【8.9】	2017年3月	7,190 人	2030年 43,720 人	2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、2020年度をピークとする事業展開の検討が必要である。
3	関連施設・イベント入込客数（駿府城公園・静岡まつり等）【8.9】	2014年3月	2,116 千人	2030年 2,960 千人	平成28年8月から開始した「駿府城天守台跡発掘調査見える化」では、市内だけでなく県外に向けた歴史文化の発信ができています。
4	歩行者通行量【8.9、11.7】	2015年3月	6,445 人	2030年 8,253 人	長期的に見れば、まちなかの歩行者通行量は減少傾向にある。
5	ロジスティクス関連企業立地件数【9.2】	2014年3月	3 件	2030年 5 件	物流の展示会出展などの情報発信に力を入れるとともに、官民連携による清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、結果的にロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。
6	一人一日当たりのごみ総排出量【12.3】	2014年3月	1,008 g/人日	2030年 810 g/人日	毎年開催するごみリサイクル展において、関係団体との協力により高い成果を出したほか、各種方面との連携を進め、目標達成に着実に近づいている。
7	主要な通りの店舗・事業所数【16.7】	2015年3月	540 件	2030年 580 件	各種支援の結果、豊かで暮らしやすい商業環境の促進及び商業の振興が図られている。
8	歴史や文化を身近に感じることができる街だと思える市民の割合【16.7】	2015年3月	63.8 %	2030年 100 %	ここ数年65%前後で推移しているが、2017年度は大きく低下した。
9	静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人たちのうちシチズンシップが身についた人の割合（再掲）【1.2、4.1、17.17】	2017年3月	98.9 %	2030年 100 %	受講生に地域や社会のために行動したいという意識付けができています。
10	互いに助け合う暮らしやすいまちだと思える市民の割合【3.4】	2014年3月	36 %	2030年 70 %	アンケート結果集計中のため直近値未把握。
11	65歳以上高齢者の地域貢献活動に対する満足度【8.5】	2017年3月	85 %	2030年 97 %	高齢者が地域で役割を担うことによる生きがいづくりが進みつつある。
12	J R 草薙駅周辺整備事業の進捗率【9.1】	2017年3月	75.4 %	2030年 100 %	現在の交通機能を確保しながらの工事であるため困難性を伴うが、定期的な工事調整会議の開催による施行者間の連携をより強化し、確実かつ安全な施行と進捗管理を行う。
13	清水港・ロジスティクス産業の従事者数【9.5】	2015年3月	11,866 人	2030年 16,611 人	数値調査中のため、直近値を把握していないが、情報発信に力を入れるとともに、清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、ロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。
14	メール配信された高齢者と家族への支援の実施【17.17】	2017年3月	100 %	2030年 100 %	2017年度は申し出があった19件全てに対応することができた。H30.4月から新たに増設された地域包括支援センター（5か所）が適切に運営できるよう指導、助言する。
15	学校訪問コンサート実施校数【17.17】	2017年3月	14 校	2030年 14 校	2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、2020年度をピークとする事業展開の検討が必要である。
16	一人一日当たりのごみ総排出量（再掲）【12.3】	2014年3月	1,008 g/人日	2030年 810 g/人日	毎年開催するごみリサイクル展において、関係団体との協力により高い成果を出したほか、各種方面との連携を進め、目標達成に着実に近づいている。
17	排水基準遵守率【14.1】	2017年3月	93 %	2030年 100 %	立入検査時に、自主測定の実施と排水処理施設の適正な維持管理について指導を行い、立入検査時に行う排水水質検査での基準超過をなくしていく。
18	ロジスティクス関連企業立地件数（再掲）【14.b】	2014年3月	3 件	2030年 5 件	物流の展示会出展などの情報発信に力を入れるとともに、官民連携による清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、結果的にロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。

1. 全体計画

行政体内部の推進体制	自治体SDGsの情報発信・普及啓発の取組状況・課題	有識者からの取組に対する評価
<p>■各種計画への反映状況や課題 静岡市のSDGs推進に関し必要な事項を定めた「静岡市SDGs実施指針」を策定した。また、第3次総合計画のうち、特に力を入れて進める「5大構想」への組込作業を開始したところ。その他、各種の個別計画についても順次SDGsを反映を進めている。</p> <p>■行政体内部の執行体制及び首長のリーダーシップ 市のSDGsの推進に当たり、専門的見地からの意見又は提言を求めため、市長を本部長とし、各局の局長級職員で構成する「静岡市創生・SDGs推進本部会議」を設置した。</p>	<p>■SDGsウィークの開催と市民認知度の向上 2019年1月3日～12日を「SDGsウィーク」と銘打って、成人式や全ての市立中学校が参加したSDGs中学生サミットなど、様々なイベントを開催し、集中的にSDGsの普及啓発を行った。ウィーク最終日には、2030年の社会を担う若者に対して普及啓発を図るため、SDGs推進TGCLしずおかを開催した。開催にあたっては、商工会議所、青年会議所等からなる地域協議会を設置し、地域の経済団体等との連携のもと開催した。 集中的なSDGsの普及啓発の結果、平成29年10月時点で2%であった市民認知度が、36%（平成31年1月）まで向上させることができた。</p> <p>■国際社会への情報発信 国連NY本部SDGs推進会議や、ハイレベルポリティカルフォーラム、持続可能な都市に関するハイレベルセミナー（インドネシア）に出席し、本市のSDGsの取組を発表した。</p>	<p>・計画面やイベント面での進捗は計画通り、あるいはそれ以上のものがあると高く評価する。</p> <p>・幅広い分野のKPIが設定されていることは高く評価される。海洋流通産業の立地、イベント実施、高齢者ケア以外の分野については、複合的な取り組みの成果をマクロ的に評価する指標が提示されているものの具体的な取り組みについての説明も必要であると思料する。たとえば地域循環共生圏の形成、スマート社会構築等具体的なモデル事業を期待する。</p> <p>・行政内部の推進体制についても横断的な情報共有組織に加えて、部局横断事業を立案推進する主体形成を期待する。</p> <p>・今後は中身が重要になってくる段階であると思料するが、例えばイベント自体での目標達成への行動（例えば廃棄物やエネルギーをはじめ、使用するモノなどのサプライチェーンへの配慮など）をきちんと行うことで範を示したり、そのためKPIを提示するなどを意識していただきたい。また、第3次総合計画における5大構想については、その実現へ向けたロードマップ作成や、SDGらしい指標や進捗計測などフォローアップの方策などにより、SDGs未来都市としてのモデルを内外に提示することを期待する。</p>
ステークホルダーとの連携	地方創生・地域活性化への貢献	
<p>■域内の連携 SDGsを推進するTGCLしずおか2019開催に向け、商工会議所、青年会議所、繊維協会、特産工業協会、観光協会、市観光大使等からなる「SDGs推進TGCLしずおか2019地域協議会」を設置し、連携を図った。また、市内大学及び静岡青年会議所と連携し、企業へSDGs推進の取組を広げるための課題と対策を調査研究を行った。</p> <p>■自治体間の連携（国内） 静岡県と連携してSDGs推進TGCLしずおかを開催し、静岡県の持つ県内市町とのネットワークを活用し、市内だけでなく、他市町に対してSDGsを発信した。</p> <p>■国際的な連携 本市のSDGs推進の取組や「ハブ都市」としての活動内容について、国連で報告を行った。また、国連の友APと協定を締結し、SDGsの普及促進や世界に向けての情報発信に相互に連携して取り組んだ。</p>	<p>■『世界に輝く静岡』の実現 静岡市5大構想×SDGs 本市が目指す『世界に輝く静岡』の実現は、市のプレゼンスを高め、交流人口の増加につなげるという意味において、本市が抱える課題である人口減少への対策につながるものである。『世界に輝く静岡』の実現に向け、特に優先すべき施策群を「5大構想（健康長寿のまちの推進、まちは劇場の推進、教育文化の拠点づくり、歴史文化の拠点づくり、海洋文化の拠点づくり）」に集約している。5大構想は、いずれも地域経済の活性化に資するものであるが、この5大構想にSDGsを組み込むことで、『世界に輝く静岡』の実現を加速化を図る。 5大構想は、経済・社会・環境の三側面全てに関係するが、未来都市計画に記載のとおり、これにSDGsを組み込むことで、それぞれの構想について統合的な視点により取り組むことが可能となる。また、SDGsの推進にあたっては、市内の企業・団体、大学などの多くのステークホルダーとの連携を図ると同時に、企業・団体、大学等の自主的な取組を促進する。</p>	

1. 全体計画

取組名	ターゲット	指標名	当初値	2018年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)	
自治体SDGsの推進に資する取組の2020年のKPI	健康寿命75歳への延伸	3.4	互いに助け合う暮らしやすいまちだと思ふ市民の割合	2013年度 36 %	2018年度 — %	2020年 49 %	-50% 0% 50% 100% データなし	アンケート結果集計中のため直近値未把握。
		8.5	65歳以上高齢者の地域貢献活動に対する満足度	2016年度 85 %	2017年度 88.3 %	2020年 87 %	-50% 0% 50% 100% 165%	「元氣いきいき！シニアサポーター事業」の参加者アンケートにおける満足度に係る目標が達成でき、高齢者が地域で役割を担うことによる生きがいづくりを図ることができた。
	自宅ですっと暮らせるまちづくり	17.17	メール配信された高齢者と家族への支援の実施	2016年度 100 %	2017年度 100 %	2020年 100 %	-50% 0% 50% 100% 100%	申し出があった19件全てに対応することができた。H30.4月から新たに増設された地域包括支援センター（5か所）が適切に運営できるよう指導、助言する。
	わくわくドキドキの仕掛けづくりと人材育成	8.9	演劇・ダンスを中心とした文化芸術イベント「ストレンジシード」来場者数	2016年度 7,190 人	2017年度 10,891 人	2020年 15,620 人	-50% 0% 50% 100% 44%	目標を上回る集客が図られ、目標以上の成果が上がっている。2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、2020年度をピークとする事業展開の検討が必要である。
		17.17	学校訪問コンサート実施校数	2016年度 14 校	2017年度 14 校	2020年 14 校	-50% 0% 50% 100% 100%	目標を大幅に上回る集客が図られ、目標以上の成果が上がっている。2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの1事業として、2020年度をピークとする事業展開の検討が必要である。
	公共空間の積極的な活用による文化・クリエイティブ活動の「舞台」の創出	8.9	関連施設・イベント入込客数（駿府城公園・静岡まつり等）	2013年度 2,116 千人	2017年度 2,023 千人	2020年 2,435 千人	-50% 0% 50% 100% -29%	平成28年8月から開始した「駿府城天守台跡発掘調査見える化」では、広報課との連携によるものも含め多くのメディアに周知したことで、きゃっしる入場者への簡易アンケートの結果によると53ページが県外の入場者となるなど、市内だけでなく県外に向けた歴史文化の発信ができています。
		11.7	歩行者通行量	2014年度 6,445 人	2017年度 6,520 人	2020年 7,123 人	-50% 0% 50% 100% 11%	長期的に見れば、まちなかの歩行者通行量は減少傾向にある。
	教育文化の香りが漂う都市空間の創造	9.1	JR草薙駅周辺整備事業の進捗率	2016年度 75 %	2017年度 89.1 %	2020年 100 %	-50% 0% 50% 100% 56%	南口駅前広場については、現在の交通機能を確保しながらの工事であるため困難性を伴うが、工事着手後は、施工業者と工事発注者等による定期的な工事調整会議の開催による施工者間の連携をより強化し、確実かつ安全な施行と進捗管理を行う。
	高等教育をはじめとした学習機会の提供とシチズンシップに富んだ人材の養成	1.2 4.1 8.6 17.17	静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を受講した人のうちシチズンシップが身についた人の割合	2016年度 98.9 %	2017年度 100 %	2020年 100 %	-50% 0% 50% 100% 100%	受講生に地域や社会のために行動したいという意識付けができた。
	歴史文化の伝承と新たな魅力の創出による風格ある街並みの形成	8.9	歩行者通行量（再掲）	2014年度 6,445 人	2017年度 6,520 人	2020年 7,123 人	-50% 0% 50% 100% 11%	長期的に見れば、まちなかの歩行者通行量は減少傾向にある。
16.7		主要な通りの店舗・事業所数	2014年度 540 件	2017年度 544 件	2020年 555 件	-50% 0% 50% 100% 27%	個店に対しては、魅力向上の支援を行い、商店街に対しては、各種補助金により活性化を促し、まちに対しては、市が目指す良好な商業環境の形成の推進等により豊かで暮らしやすい商業環境の促進及び商業の振興が図られている。	

1. 全体計画

	取組名	ターゲット	指標名	当初値	2018年	2020年	達成度 (%)	進捗状況や課題等 (定性指標や補助指標等を含む)
自治体SDGsの推進に資する取組の2020年のKPI	駿府城公園周辺における賑わいと潤いのある新たな公共空間の創造	8.9	関連施設・イベント入込客数 (駿府城公園・静岡まつり等) (再掲)	2013年度 2,116 千人	2017年度 2,023 千人	2020年 2,435 千人	-29%	平成28年8月から開始した「駿府城天守台跡発掘調査見える化」では、広報課との連携によるものも含め多くのメディアに周知したことで、きゃっしる入場者への簡易アンケートの結果によると53ページが県外の入場者となるなど、市内だけでなく県外に向けた歴史文化の発信ができています。
		16.7	歴史や文化を身近に感じることができる街だと思える市民の割合	2014年度 63.8 %	2017年度 61.5 %	2020年 73.8 %	-23%	ここ数年65%前後で推移しているが、2017年度は大きく低下した。
	「働くみなと」に「楽しむみなと」を加えた求心力の強い港町の創生	9.5	清水港・ロジスティクス産業の従事者数	2014年度 11,866 人	2018年度 ー 人	2020年 13,646 人	データなし	数値調査中のため、直近値なし。 (補助指標：ロジスティクス関連企業立地件数 4件⇒11件) 官民連携によるポートセールス活動・勉強会や首都圏における展示会への出展等による情報発信を実施したことにより、H27年度からH29年度におけるロジスティクス関連企業の立地件数は、目標を上回る11件を達成した。
	産官学官民連携による「海洋文化拠点」の形成	9.2 14.b	ロジスティクス関連企業立地件数	2013年度 (2008-2013 期間計) 3 件	2017年度 (2015-2018 期間計) 11 件	2020年 (2019-22 期間計) 4 件	800%	物流の展示会出展などの情報発信に力を入れるとともに、官民連携による清水港利活用促進のための勉強会を開催することで、結果的にロジスティクス関連企業の立地に繋がっている。
		12.3	一人一日当たりのごみ総排出量	2013年度 1,008 g/人日	2017年度 928 g/人日	2020年 975 g/人日	242%	毎年開催するごみリサイクル展において、しずおか市消費者協会や民間の廃棄物処理業者等の各団体との協力により高い成果を出したほか、廃棄物減量等推進員との連携、教育機関との連携による各種啓発活動等、各種方面との連携を進め、目標値を達成することができた。
		14.1	排水基準遵守率	2016年度 93 %	2017年度 89 %	2020年 100 %	-57%	立入検査における排水基準違反3件、自主測定未実施3件、自主測定での基準超過が3件あり、遵守率は100%とならなかった。立入検査時に、自主測定の実施と排水処理施設の適正な維持管理について指導を行い、立入検査時に行う排水水質検査での基準超過をなくしていく。